

整理番号

09

川崎市SDGsプラットフォーム分科会 活動報告書

提出日

2024年3月27日

分科会名

「川崎発！医療のエコ活動を広めよう」分科会

分科会長

事業者名

別紙「活動計画書（第2号様式）」のとおり。

担当部署

担当者名

メール

電話番号

(1) 活動報告

別紙「成果報告書」のとおり。

(2) 関連するSDGsのゴールとゴール達成に向けた具体的な取組内容

別紙「活動計画書（第2号様式）」のとおり。

(3) 参加メンバー（事業者名）

別紙「活動計画書（第2号様式）」のとおり。

2023年度設置	川崎発！医療のエコ活動を広めよう 分科会長：Miraiallかわさき			
目的・趣旨	海外では使える薬が日本では使うことが出来ない「ドラッグ・ロス（ラグ）」問題。限りある医療資源（薬やお金、医療に関わる人など）をみんなで大切に使うことで、いつまでも新しい薬や治療法が必要な人に届けられる社会を目指した「医療のエコ活動」。これらを広く自分ごととして知ってもらい、薬に頼らない元気な身体を作り、持続可能な社会にしていけることを目的としています。			
活動内容と期待される成果・効果	関連する主なゴール	  		
分科会イメージ				
1. コンサートに参加して自分ができる医療のエコ活動について考えよう！ 				
2. 先生にもできる！医療のエコ活動授業！！ 				
3. みんなで広げよう、知ろう 				
成果・効果 「医療のエコ活動」「ドラッグ・ロス（ラグ）」の認知向上 行動変容を起こすきっかけを作る				
参加メンバー：4 団体 Miraiallかわさき【※代表】、株式会社カリヨン・カンパニー、一般社団法人サステナブルマップ、ストーリー株式会社				



川崎発！子どもたちのより良い未来のために

「医療のエコ活動」を広めよう

ミライアル 川崎

MIRAIALL かわさき

川崎をより良くする市民団体の設立

Miraiall kawasaki

一般社団法人 ミライアル川崎発足！



「ミライアルかわさき」は、**子供たちの未来がよりよくあるために社会的な問題を解決していくこと**を目的とする市民団体として2023年4月1日に発足し、8月末に一般社団法人となった団体です。株式会社カリヨンカンパニーとストーリー株式会社が共同で設立した法人です。



Miraiall かわさき／代表



Miraiall かわさき／副代表

株式会社カリヨン・カンパニー／代表取締役 ストーリー株式会社／代表取締役

平松 あずさ

松尾 実里



かわさきSDGs大賞

川崎市SDGs大賞に応募、特別賞受賞！



Miraiall Kawasaki



KAWASAKI
SDGs

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

Miraiall kawasaki



医療にも限りがある
という事を意識した事がありますか？

そして欧米では使える「がん」等の新しい治療薬の約7割が
日本では使用できないということを知っていますか？

解決したい社会課題

Miraiall kawasaki

子どもたちの未来がよりよくあるために、新しい医療・治療法が患者さんに届かない「**ドラッグ・ロス**」、「**ドラッグ・ラグ**」問題を解決したいと考えています。

✓ ドラッグ・ラグ

海外で使われている治療薬が、日本で承認されるまでに長い年月がかかる問題。



✓ ドラッグ・ロス

海外で既に使われている治療薬が日本では開発が行われず、日本で使うことができない状況。



小児がんなど、希少性の高い病気の人にとっては**命にかかわる問題**となっている

要因

Miraiall kawasaki

その要因の一つに医療費の増大（医療にかけられる財源の不足）が関連している。



少子高齢化



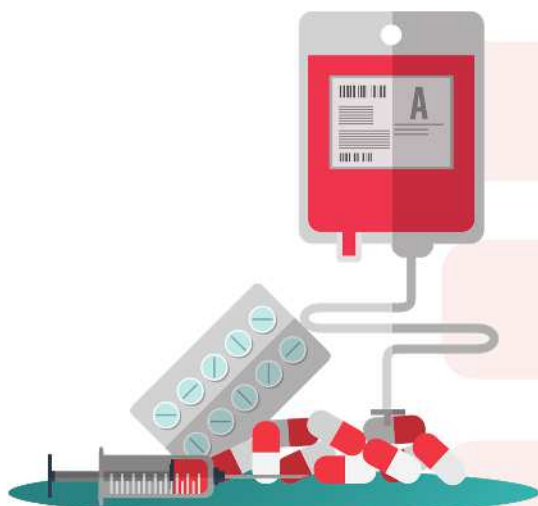
医療費の増大



医療にかけられる財源の不足



ドラッグ・ロス（ラグ）



新しい治療法が開発
されない！

解決のために私たち一人ひとりが出来ること

医療に関わる資源にも限りがあります。それを大切に使うことでいつまでも新しい薬や治療法を届けられる持続可能な社会・医療をみんなで考え、築いていくことを目指した活動です。



医療のエコ活動

- ✓ 健康増進／感染症予防
- ✓ 適切なくすりの服用
- ✓ 検診による早期発見・早期治療
- ✓ 必要に応じた適切な受診



幸福で健康的な
人生100年時代

いつまでも
医療・治療薬を届け
られる社会の実現

出典：瓜生原 葉子 同志社商学 第74巻 第2号（2022年9月）



解決したい社会課題

医療資源（医療費など）が不足し、新しい医療・治療法が患者さんに届かない！



音楽絵本 | ポーリーとナーミーのまほうのステッキ

2023年3月、コンサート活動を通じて医療のエコ活動の普及活動を開始！

音楽絵本のご紹介

主人公のポーリーとナーミーがお薬が出るステッキでいろいろな人を助ける物語で、ステッキの使いすぎで新しいお薬が生まれなくなってしまうことに気付くストーリー展開です。



4/15コンサートの様子@高津区

絵本と音楽によって子どもたちや子育て世代が楽しみながら新しい薬を生み出すために医療資源を大切にすることの重要性を学んでいただくことができます。



ドラッグ・ロスを重要な問題と感ずるようになったと回答した人

80%
以上

156組 | 555名の家族が参加

コンサート実施時の反応

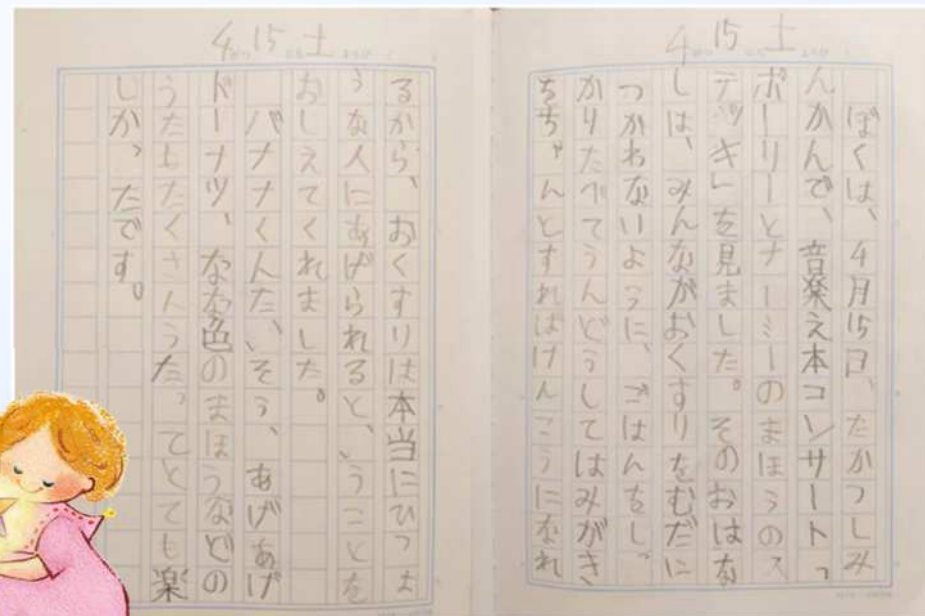
小学校にも来てほしい〜くすりは身近だけどよくわからない話ですがとてもわかりやすかった。大・大・大満足です。

難しい薬についてのお話を分かりやすく、親しみを持ちながら知ることが出来ました。

とてもステキなおはなしでもっともっと沢山の人に知ってほしいし、何度も何度もくり返し見たいし話を聞きたいです。

この絵本をきっかけに子どもとドラッグロスについて考える（話す）ようにしていきたいです。きらきらの魔法のステッキがあることで、子どもにも親しみやすい内容でした。

とても可愛い絵本と音楽で子供もじっと見ていました。最後のお話を聞いて納得できました。



※コンサートを観劇したあと書いてくれた小学生の作文

川崎市内全幼稚園に寄贈

- 川崎市幼稚園協会への音楽絵本寄贈式が決定し、市内全幼稚園85園へ寄贈予定
- 音楽絵本を活用して幼稚園の先生方から子どもたちへ広がる仕組みづくりに取り組んでいきます

クラウドファンディング([リンク](#))

- 川崎市幼稚園協会から共感いただき、3/12音楽絵本寄贈式が決定し、市内全幼稚園85園へ寄贈



現在の支援総額
1,512,000円
100%
目標金額は1,500,000円

支援者数
53人

目標達成!!

- ✓ 3/12音楽絵本寄贈式
- ✓ 市内全85園へ寄贈



幼稚園の先生方から広がる仕組みづくり

- 2/10SDGsマルシェinあさおにて、幼稚園指導者へ読み聞かせ生演奏/医療のエコ活動の説明を行いました



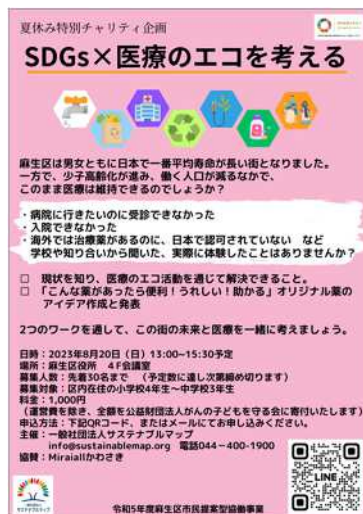
麻生区山本区長

イベント開催 | 小中学生（麻生区SDGs推進隊）※

- 川崎市における創薬の取り組みや医療のエコ活動に関する情報提供・WSを実施しました
- 小中学生にも「医療のエコ活動」を理解・共感してもらうことができ、未来の医療に対する想いや課題解決に向けたご意見を確認することができました



座談会の様子



子どもたちによるWS作品



2023/10/22
福田市長との対談ラジオ番組



※麻生区SDGs推進隊：小中学生を対象としたメンバーで結成され、地域が持続していく仕組みの理解と行動を促している団体。川崎市の給食からプラスチックストローを廃止した実績がある。

明治安田生命様との協働を開始

- 小学生、大学生向けの授業にてSDGs×医療のエコ活動授業を行いました
- 今後、市民イベントや川崎フロンターレ様イベントにて協業を行っていく予定です



平間小学校SDGs授業 2024/01/20

- 川崎SGDs大賞を受賞した平間小学校で「医療のエコ活動」授業を協働で行いました



明治大学法学部 山田ゼミ授業 2024/01/11

- 川崎支社 ご担当者様の出身ゼミで明治安田生命様のSDGsの取り組みに合わせて、「医療のエコ活動」のご紹介を行いました



専修大学の取り組み

- 課題解決プログラム参加学生8名が、ご自身の母校(高校)に向けた出張授業を行いました
- 川崎市立橘高校、専修大学付属高校など約600名の高校生へご紹介いただきました



2023/4/1~12/30:課題解決プログラム



テーマ:ドラッグ・ロス解消に向けた
「医療のエコ活動」による社会貢献



出張授業 2023/10/30~12/7



学生が作成した授業資料

現在の医療環境と
未来を担う私たち
～医療のエコ活動～

専修大学 課題解決型チャレンジプログラム
アセスメントチーム



困った時に治療薬がない世界を想像してみませんか？

治療方法がある場合...

- ◆痛みなどの苦痛から解放されている
- ◆将来に希望が持て、毎日楽しく生活している
- ◆万が一病気になっても、治療薬があることで安心感がある

治療方法がない場合...

- ◆痛みなどの苦痛を感じながら毎日暮らしている
- ◆将来に希望が持てず、不安な毎日を送っている
- ◆徐々に症状が悪くなり、苦しみを感ずる

イベント開催

多くの支援をいただき、ママや子供達が参加するイベントで情報発信中

8 / 6

川崎フロンターレ



日本赤十字社、川崎市共催による健康・献血推進を目的としたイベント



2万人

10 / 7
10 / 8

まんなかフェス



来場者

8万人

武蔵小杉で川崎のママ達が企画・広報・出演・運営する子育てイベント。

今年のテーマ | カラダ元気！ココロ元気！

イベント開催 | ミライアルかわさき 座談会

「運動・食・医療」など人々の健康に貢献されている方が続々アンバサダー就任



2023年5月より毎月座談会を開催、共感いただいた方と一緒に普及活動をしています。



アンバサダーによる情報発信

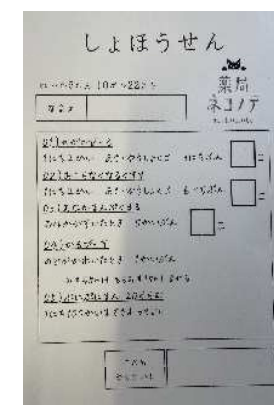


薬剤師体験をする様子 保護者から回収した残薬

- ✓ 座談会からのアイデア
- ✓ 自身が経営する薬局での残薬収集
- ✓ 小学校PTAへの授業相談
- ✓ ママコミュニティへのSNS発信
- ✓ ママが検診を受けやすい環境づくり

実績

回収した残薬の薬価を計算、薬の無駄が見える化し、新しいくすり創りへの資源配分の重要性を伝えてくださっています。



こども薬剤師体験ブースの処方箋

イベント開催 | ミライアルかわさき 座談会

- 行政各局・地域のプロスポーツチーム・メディアにも共感いただき、ご支援をいただいております



川崎フロンターレ×健康福祉局

TEKTEKかわさきコラボポスター



- ✓ 川崎フロンターレ、健康福祉局との協業により歩いた分のポイントが子どもたちのためになる**健康ポイント事業(かわさきTEKTEK)**とあわせた**ポスター**を作成

総務企画局

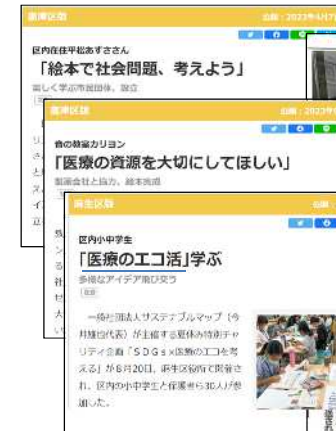
かわさきSDGs大賞最終選考会



- ✓ 総務企画局が運営するプラットフォームに**分科会**を設置しコンサート・授業・マップ作成に取り組む
- ✓ **かわさきSDGs大賞2023の最終選考会**に選定され、特別賞を受賞

地方メディア

タウンニュース



東京新聞(川崎版)



- ✓ **地域メディア掲載回数:8回**
- ✓ 掲載媒体:タウンニュース高津区・麻生区、東京新聞川崎版、iTSCOM

イベント参加者のアンケート結果

約**2,400**名の方にイベントに参加いただき、**1,170**名からアンケートにご協力をいただきました

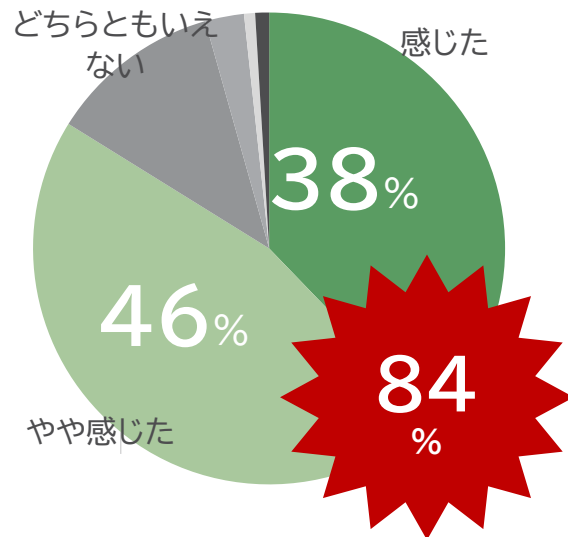
イベント名	音楽絵本コンサート	川崎フロンターレ イベント	まんなかフェス
日時・場所	2023年4月15日(土) @川崎市高津市民館	2023年8月6日(日) @等々力陸上競技場	2023年10月7日(土)-8日(日) @武蔵小杉こすぎコアパーク
情報提供・ 意見集約方法	音楽絵本コンサート開催による 情報提供・アンケート回収(対面)	ブースでのパンフレットによる情 報提供・アンケート回収 (対面)	ブースでのパンフレットによる情 報提供・アンケート回収 (対面)
アンケート集約数 (来場者数)	190名 (555名)	401名	579名 (約1400名)



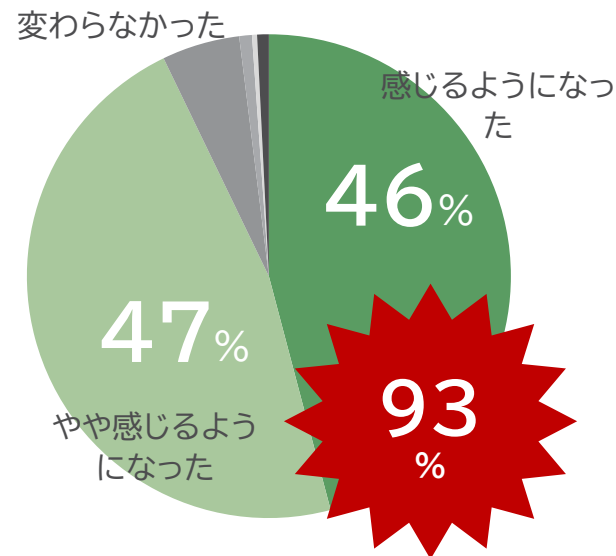
イベント参加者のアンケート結果

多くの方がドラッグ・ロスを重要問題と捉え、医療のエコ活動に取り組みたいと回答してくださいました

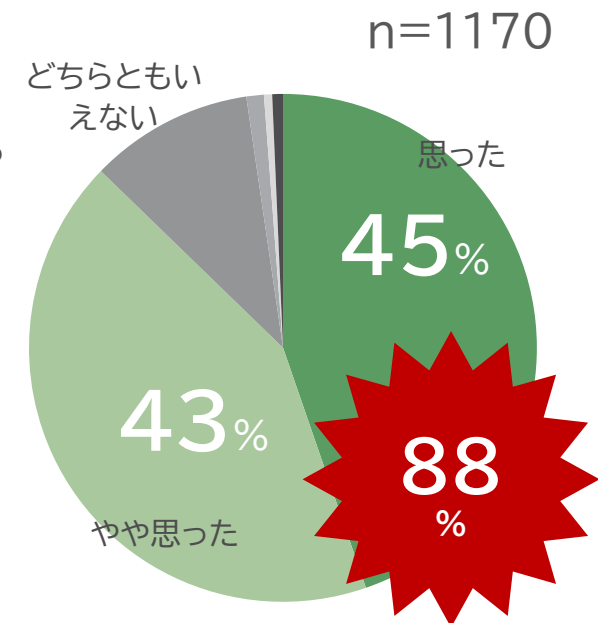
「ドラッグ・ロス」の現状を知って日本の医療に不安や不満を感じましたか



「ドラッグ・ロス」は自分や社会にとって重要な問題と感じるようになりましたか



ドラッグ・ロスを解消するために「医療のエコ活動」を取り組みたいと思いましたか

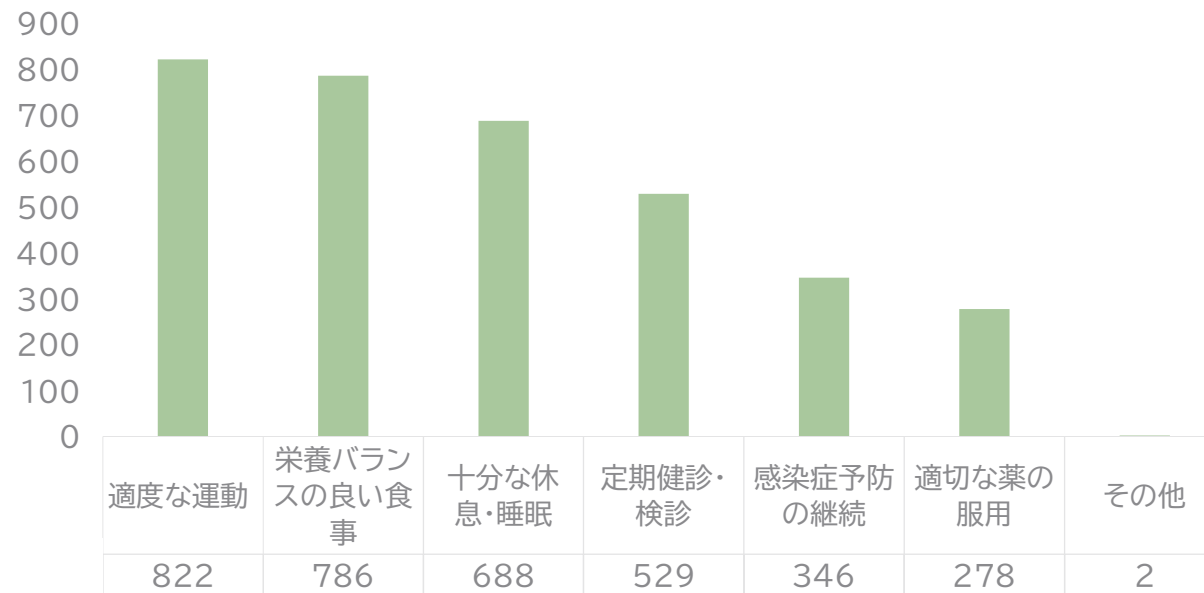


イベント参加者のアンケート結果

持続可能な社会・医療を築いていく必要性を理解、具体的な行動を起こす意識変容へ

実際にどんなことに取り組みたいと思いましたか。(複数回答可)

n=1170



課題当事者:岸部さんとの出会い



出典: TBS NEWS23 2022年3月放送 (無断複写・転載厳禁岸部さんより使用許諾を取得)



医療ルネサンス №7930 子どものドラッグラグ ①/5

間に合わなかった新薬

「日本で新薬が早く承認されていたら、蹴は今もここにいないんじゃないかな」川崎市の岸部知佐子さん(55)はうつむいた。

2021年5月、長男・蹴君を小児がんの一種「神経芽腫」で亡くした。12歳だった。腫瘍が劇的な効果で治癒した。小児がんでは白血球、脳腫瘍に次いで多く、乳幼児を中心に年間約2000人が発症するとされる。蹴君は16年に検査で見つかり、抗がん剤や手術などの治療を受けた。

岸部さんが新薬「ユニツキシ」の存在を知ったのは、治療経過をSNSにつづつたときだった。自分分の息子も同じ病気だと連絡があり、詳しく話を聞くと、15年秋から新薬による治療を受けていた。ユニツキシは、免疫細胞の腫瘍への攻撃を活性化させる。米国での臨床試験結果では、神経芽腫の中でも難治性と言われる患者に投与すると、従来の抗がん剤治療と比べ、2年間再発しなかった患者が割合多かった。米国は15年3月、欧州連合(EU)では同年8月に承認されていた。

一方、日本では16年当時、国内承認に向け、医師主導治験が実施されている段階だった。10年から始まった国際共同治験に日本が参加していなかったためだ。

岸部さんはすぐに主治医に確認したが、治験の患者登録は終わっていた。16年秋、蹴君は腫瘍が消失し、いったんは退院できたが、17年8月に再発。がんは骨にも転移していた。

「もうすぐ新しい薬が日本でも使えるようになるからね。蹴君さんはもう少し待てば、身体は次第に順化。歩くことも難しくなり、21年3月に行われた小学校の卒業式には車椅子で出席した。ようやく日本で新薬が承認されたのは、蹴君が亡くなった直後の21年6月」

米国での承認から6年もの年月が過ぎていた。「高校生になったら、サッカー部に入りたい」。闘病生活は5年3か月。及んだが、蹴君はずっと抱える日が来ることを信じていたという。「どんなに頑張っても、蹴は苦しさを吐けなかった」。岸部さんは、自宅に飾られた蹴君の遺影を見つめた。

主治医だった国立成育医療研究センター(東京都)小児がんセンター長の松本公一さんは「新薬は全ての患者に効果があるわけではないが、患者や家族に『選択できなかった』という後悔を残してしまう状況は変えていかないとけない」と語っている。

◇ 医薬品の承認が欧米と比べ何年も遅れる「ドラッグラグ」。子どものがんや難病など患者数の少ない病気では特に深刻だ。この問題に直面し、葛藤する患者家族の思いを伝える。

(このシリーズは第5回)

出典:読売新聞 2023年1月13日付 (無断複写・転載厳禁) 岸部さんより使用許諾を取得

レモネードスタンド活動



研究会での発信

- 福田市長、青木市議へ医療のエコ活動と音楽絵本のお届けにお伺いしました
- 事業構想大学主催研究会で青木市議からMiraiallかわさきの活動事例を紹介いただきました

2023/9/11 福田市長面談



2023/12/22 「再生医療で描く日本の未来研究会(第5回)」

研究会出席者

座長:事業構想大学院大学 田中里沙 学長

委員:

1. 参議院議員: 古川俊治 先生

1. 再生医療学会: 岡野栄之 理事長
2. シンクタンク:日本総合研究所 翁百合 理事長
3. 医療経済:後藤励 先生(慶應義塾大学)
4. 業界団体:再生医療イノベーションフォーラム 志鷹義嗣 会長

オブザーバー:

- | | |
|-----------|---|
| 1. 内閣府: | 科学技術・イノベーション推進事務局
健康・医療戦略推進事務局 |
| 2. 厚生労働省: | 医政局 研究開発政策課
保険局 医療課
医薬局 医療機器審査管理課 |
| 3. 経済産業省: | 商務サービスグループ 生物化学産業課 |
| 4. 文部科学省: | 研究振興局 ライフサイエンス課 |
| 5. PMDA: | 再生医療製品等審査部 |



国際会議で取り上げられました！（日経・FT感染症会議）

- 感染症領域の国際会議で「平時からの備え」の有効な手段として「医療のエコ活動」が紹介されました
- Miraiallかわさきの活動事例についても取り上げていただきました

会議の概要

第10回 感染症に強い社会へ

日経・FT感染症会議

2023年10月16日(月) - 10月18日(水)

➤ 2023年10月17日(火)

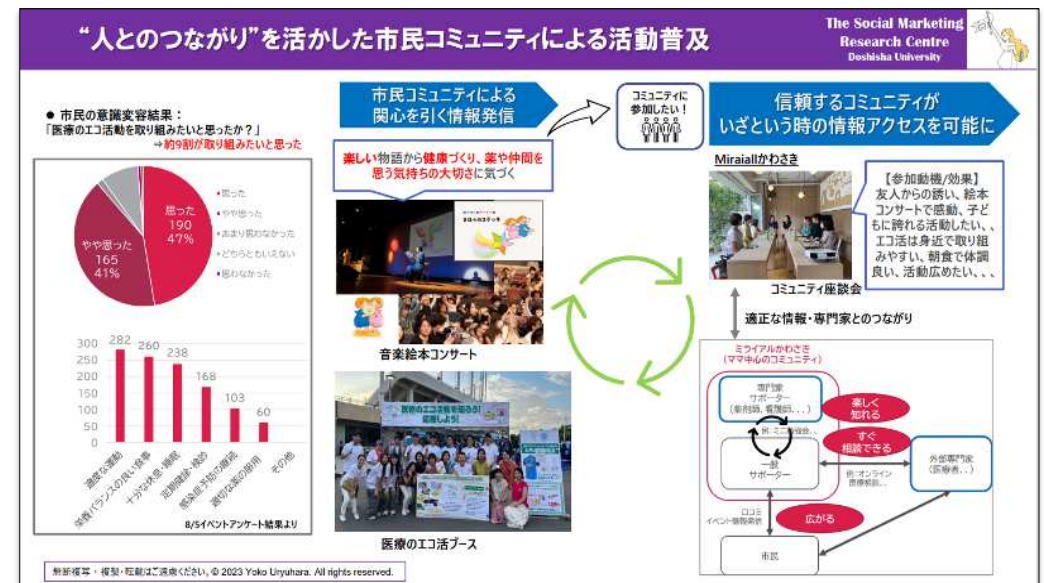
議題5 レジリエンシー ～危機に強い市民社会へ～
Agenda5 - Towards Building a Resilient Civil Society

< Moderator >
小柴 巖和 氏
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

< プレゼンター >
瓜生原 葉子 教授
(同志社大学商学部教授/ソーシャルマーケティング研究センター長)



Miraiallかわさきの活動事例紹介



国際会議で取り上げられました！（日経・FT感染症会議）

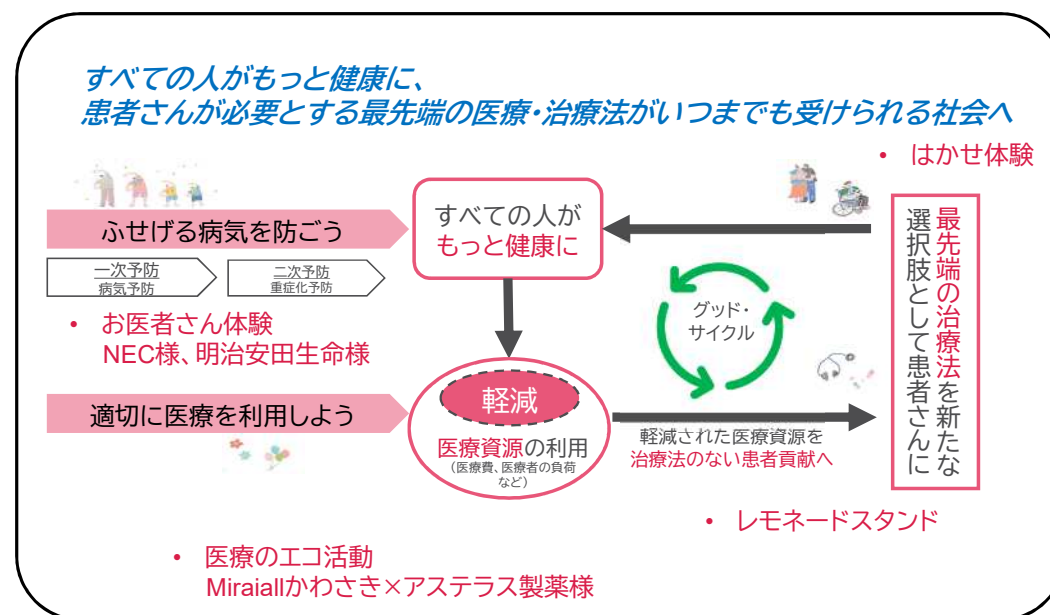
- Miraiallかわさき主催子ども達のもっとよい未来のために「仕事」「健康」をテーマとした子育てイベント開催
- 5月12日ラゾーナにて医療のエコ活動に共感いただいた多くの企業・団体様と一緒にブース出展予定

イベントの概要



会名：ママ&キッズの憧れお仕事体験フェスタ
日時：2024年5月12日（日）10:00-17:00
場所：川崎駅直結「ラゾーナかわさきプラザルーファ広場」
主催：一般社団法人Miraiallかわさき
共催：川崎市、川崎市教育委員会、かわさきFM
※会場提供：三井不動産

医療のエコ活動エリア（予定）



2023年度設置

川崎発！医療のエコ活動を広めよう

分科会長：一般社団法人Miraialかわさき



KAWASAKI
SDGs

川崎市は持続可能な開発目標(SDGs)を推進しています。

目的・趣旨

海外で使える薬が日本では使うことができない「ドラッグ・ロス（ラグ）」問題。限りある医療資源（薬屋やお金、医療に関わる人など）をみんなで大切に使う事で、いつまでも新しい薬や治療法が必要な人に届けられる社会を目指した「医療のエコ活動」。これらを広く自分ごととして知ってもらい、薬に頼らない元気な身体を造り、持続可能な社会にしていけることを目的としています。

活動内容と期待される成果・効果

活動①：子育て世代向け体験型イベントの開催

親子で楽しみながら日本の将来のより良い医療についてや、そのために自分たちが今できることを考える機会を提供する体験型イベント、コンサートを開催する。

活動②：学生向けSDGs授業の開催（幼小中高大）

SDGs教育のテーマとして、日本の将来のより良い医療についてや、そのために自分たちが今できる事を考える機会を提供する授業を開催する。

※幼稚園では音楽絵本による教育

成果・効果

医療費適正化に向けて医療資源を大切に、市民の意識行動変容に繋げることが出来る。

医療資源の効率的活用、新しい治療法や必要な医療を持続的に届けることができる。

関連する主なゴール



分科会イメージ



参加メンバー：5団体

Miraialかわさき「代表」、(株)カリオンカンパニー、一般社団法人サステナブルマップ、ストーリー(株)、アステラス製薬(株)

